

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年5月23日現在

機関番号：15401
 研究種目：基盤研究（C）
 研究期間：2010～2012
 課題番号：22530976
 研究課題名（和文） 教員養成・美術館・小中連携による批評力を育むグローバル時代の美術教育カリキュラム
 研究課題名（英文） Global Art Education Curriculum Fostering Critical Ability through the Alignment of Teacher Training College, Art Museum, Elementary and Junior High Schools
 研究代表者
 中村 和世（NAKAMURA KAZUYO）
 広島大学・大学院教育学研究科・准教授
 研究者番号：20363004

研究成果の概要（和文）：

学校と美術館との連携に関する海外の最新事例の調査を踏まえて、子どもの感性・美的判断力を培う鑑賞学習は発達段階に応じて小学校から中学校まで系統立てることが可能であることを示し、広島県公立小学校教員12名と広島県立美術館学芸員2名の協力を得て小学生を対象とした題材・教材開発を行い、教員のための『広島県立美術館アートカード入門—鑑賞学習へのヒント—』（2011年）、『広島アート・トーク入門—教室でできる美術館鑑賞』（2013年）を刊行した。

研究成果の概要（英文）：

The lesson plans and materials of art criticism for elementary school children are developed through the alignment of teacher training college, art museum, elementary and junior high schools. This development is taken placed based on the field research of the latest cases of the partnership of school and art museum in overseas, and is redefined by conducting the action research. The outcomes of this project are brought together in two books, “Introduction to Art Card Materials of Hiroshima Prefectural Art Museum: Tips for Art Appreciation” (2011) and “Introduction to Hiroshima Prefectural Art Museum Art Talk: Art Museum Experience in Classrooms” (2013).

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	500,000	150,000	650,000
2011年度	500,000	150,000	650,000
2012年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	1,500,000	450,000	1,950,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教科教育学

キーワード：図画工作、連携、美術館、批評力、グローバル

1. 研究開始当初の背景

国内外で今日のグローバル化に対応する
図画工作・美術科カリキュラムの開発が課
題となっている。本研究は、グローバル化
する文化・社会に必要な資質・能力として
批評力を取り上げ、ジョン・デューイの教
育的美術批評に依拠した美術鑑賞教材の開
発をねらいとした。学校教育に携わる教員、
美術館教育に携わる学芸員、教員養成に携
わる大学教員から構成される共同研究を通
して専門性と実践性を兼ね備えた教材を開
発することを目指した。

2. 研究の目的

本研究は、教員養成、美術館、小・中学
校の連携によって、批評力の育成を目的と
するグローバル時代の美術教育カリキュラ
ムの基礎研究を行うことを目的とした。広
島県における教員養成、美術館、小・中学
校の研究ネットワークの構築を目指し、グ
ローバル化に対応する美術教育カリキュラ
ム原理の明確化、教員養成・小・中学校に
おけるモデル題材の開発、その実践と検証
を行うことを主なねらいとした。

3. 研究の方法

大学教員 1 名、美術館学芸員 2 名、公立
中学校教員 1 名、公立小学校教員 12 名か
ら構成される共同研究によって、広島県に
おける学校と美術館との連携ネットワーク
の構築を進め、子どもの批評力を培う題材
と教材を開発している。開発に当たっては、
海外の最新事例の現地調査を行い、米国フ
ィラデルフィア市にあるフィラデルフィア
美術館やバーンズ財団、ニューヨーク市に
あるメトロポリタン美術館、第 52 回全米美
術教育学会ニューヨーク大会において、学
校と美術館との連携に関する情報収集を行
っている。初年度に、関連する先行研究の

整理を行うとともに、共同研究のための準
備を進め、次年度以降に、アクション・リ
サーチを通して、小学校低・中・高学年の
発達段階を踏まえたモデル題材及び教材を
開発している。開発した題材と教材は『広
島県立美術館アートカード入門－鑑賞学習
へのヒントー』（2011 年）、『広島アート・
トーク入門－教室でできる美術館鑑賞』
（2013 年）としてまとめ、広島県立美術館
のホームページを通して公開するほか、広
島県公立小学校約 560 校に無料配布し、そ
の有効性について質問紙調査を行っている。

4. 研究成果

子どもの感性・美的判断力を培う鑑賞学
習は発達段階に応じて幼児期から中学校ま
で系統立てられることを文献研究によって
示し、広島県公立小学校教員と広島県立美
術館学芸員との共同研究によってモデル題
材と教材を開発し、『広島県立美術館ア
ートカード入門－鑑賞学習へのヒントー』
（2011 年）、『広島アート探検 教室で
できる美術館鑑賞』（2013 年）としてまと
めている。研究成果については、2012 年 6 月
に開催されたアメリカにおける国際美術教
育学会インディアナポリス大会で
“Developing Children’s Abilities for
Transfer of Art Learning: Hiroshima Art
Appreciation Project for Children” と題
した口頭発表を行い海外から好評を得てい
る。国内では、美術科教育の学術団体であ
る大学美術教育学会の学会誌において『『広
島アート探検 教室でできる美術館鑑賞』
プロジェクトーコミュニティを基盤にした
アクション・リサーチによる開発』（2013
年）を発表するほか、公益財団法人教育美
術振興会が刊行する月刊誌『教育美術』に
「言語活動に着目した小学校と美術館との

連携のあり方を探る—『アート・スピークス! (Art Speaks!)』から『広島アート探検 教室でできる美術館鑑賞』への展開」(2012年)などを発表している。また、子どもの感性・美的判断力の基礎理論に関して、米国では、学習の認知的側面が重視される一方で、情意的側面が看過される傾向があることを示し、ブルームのタキソノミー改訂版を基に認知、身体、情意、メタ認知の4側面から子どもの感性・美的判断力の発達を図る授業論を開発している。今後は、グローバル化に対応した図画工作・美術科カリキュラムの開発をさらに進めるため、21世紀型学力における批評力の位置づけに関する日米比較を行うことと合わせて、学校と美術館との連携による教育プログラムのさらなる開発を行う予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計10件)

1. 中村和世、「『広島アート探検 教室でできる美術館鑑賞』プロジェクト—コミュニティを基盤にしたアクション・リサーチによる開発」、大学美術教育学会、45巻、査読有、2013、pp271-278
2. 中村和世、「J. デューイとA. C. バーンズによる美術教育運動に関する研究—1922年から1926年までの財団創設期を中心に—」、日本デューイ学会紀要、第53号、査読有、2012、pp97-109
3. 中村和世、「InSEA/USSEA大会(於米国インディアナポリス)」、教育美術、No. 843、査読無、2012、pp58-59
4. 中村和世、「第52回全米美術教育学会 ニューヨーク大会報告—NAEA会長ロバート・セイボル先生から日本の美術教育者へのメッセージ」、教育美術、No. 840、査読無、2012、pp54-59
5. 中村和世、永井明生、藤崎綾、三上玲子、増田紀美、西田恭子、柳原真由美、佐々木芳、國清あやか、加嶋真

子、「言語活動に着目した小学校と美術館との連携のあり方を探る—『アート・スピークス! (Art Speaks!)』から『広島アート探検 教室でできる美術館鑑賞』への展開」、教育美術、No. 846、査読無、2012、pp56-61

6. 中村和世、「造形科における『言語活動』の目的、内容、方法を考える—ハリー・プロウディの美的教育論の実践化を通して—」、学校教育、12月号(1145号)、査読無、2012、pp12-17
7. 中村和世、「造形科教育の目的—今日におけるJ・デューイの美術教育論の継承と課題—」、学校教育、11月号(1132号)、査読無、2011、pp14-21
8. 中村和世、「芸術の教育的価値に関する研究—F. パーカーとJ. デューイのカリキュラム論の比較を通して—」、日本デューイ学会紀要、第52号、査読有、2011、pp93-103
9. 中村和世、大和浩子、中島敦夫、吉川和夫、「図画工作・美術科における『ブルームのタキソノミー改訂版』の活用に関する考察」、学校教育実践学研究、17巻、査読無、2011、pp71-80
10. 中村和世、「新教育の思想による美術教育の展開—フランシス・W・パーカーとパーカー・スクールの教育実践から—」、大学美術教育学会誌、第43号、査読有、2011、pp231-238

[学会発表] (計3件)

1. Kazuyo Nakamura, Developing Children's Abilities for the Transfer of Art Learning: The Hiroshima Art Appreciation Project for Children, 2012InSEA/USSEA Conference-Indianapolis, June 23 2012, Indianapolis U.S.A.
2. 中村和世、「J・デューイとA・C・バーンズによる美術教育運動の実際に関する研究」、日本デューイ学会第55回研究大会、2011年10月2日、関西学院大学

3. 中村和世、「進歩主義教育における芸術の教育的価値—F. パーカーとJ. デューイのカリキュラム論の比較を通して—」、日本デューイ学会第54回研究大会、2010年9月19日、大正大学

〔図書〕（計2件）

1. 中村和世・広島県立美術館共同編集、広島県立美術館、『広島県立美術館アート・トーク入門—教室でできる美術館鑑賞—』、2013年、30ページ
2. 中村和世・広島県立美術館共同編集、広島県立美術館、『広島県立美術館アートカード入門—鑑賞学習へのヒント—』、2011年、40ページ

〔その他〕

ホームページ等

<http://www1.hpam-unet.ocn.ne.jp/education/>（広島県立美術館 教育プログラム）

6. 研究組織

(1) 研究代表者

中村 和世 (NAKAMURA KAZUYO)

広島大学・大学院教育学研究科・准教授

研究者番号：20363004

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：